

日	月	火	水	木	金	土
	2月		雪山探検 1	2	節分 3	4
5	6	7	どんどやき 8	文殊山～ 〇9 周防大島縦走	おひさまの日の ひとつのじかん 10	建国記念の日 11
12	13★ こい・おうちで あひま	14★ こい てらちてあたま	15	16	17	18
19	卒業生の 20 お話 (仮)	21	22	天皇誕生日 23 てらいち	24	25
26	正式に決定 ひらまに連絡します。	27	28	13日～の週 一 こうじ作り 20日～の週 一 みそ作り 〇 今月のお弁当の日 緑色 9日(木) 登山		

◆♪◆*...◆♪◆* ...◆*...◆ お知らせ ◆♪◆*...◆♪◆* ...◆*...◆

- ★6年生 旅立ちの会 (6年生最終日) 3月21日(火) いつもの時間
- ☆1～5年生 大きくなったねの会 (今年度最終日) 3月24日(金) いつもの時間
- ★おひさまミーティング (スタッフとおうちの方とお話♪1家庭ずつ) 3月26日(日), 27日(月) 午後

“子ども大人も楽しむ日”
をテーマにただ今企画中。
日にち空けておいて
ください♪

- ☆2023年度 新年度スタート (新2～6年生) 4月10日(月)
 - ★ はじまりの会 (新1～6年生) 4月11日(火)
- ★印の旅立ちの会、はじまりの会は
おうちの方もぜひどうぞ♪

ふっくんのコーナー「雪山登山&スキーに行ってきた！」



1日目
今年の雪山は今までで1番の積雪だった。コンディションも過去最高で寒さは和らぎ、風もない。青空と白銀の美しい世界が広がっている。今回はメンバー全員がそろい雪山登山に臨むことができた。誰も踏んでいない雪の上を遠慮することなく踏みまくりながら、ずんずん進む。登山しながら雪と触れ合うのはとても楽しい。ちょっと手を伸ばせばサラサラの雪に手が届く。固めて投げあっても楽しいし、そこに転がるのも楽しい。色々な場所で雪を食べた優は場所によって味が違うと言っていた。のどが渴いた時は雪よりツララの方がおいしいと陽里が教えてくれた。英信は叫んでも雪に音が吸い込まれるのを発見した。(芽生は木に「YES」「NO」で答えられる質問をすると雪を落として返事をしてくれると言っていた。頂上では新と弥八がびっくりするほど大きい雪だるまを作った。僕はみんなと雪合戦をした。雪がたくさんあるので、玉や壁を作る材料に困ることなく、白熱した戦いになった。下山の時もひたすら雪を楽しんだ。坂をゴロゴロ転がったり、雪の上にダイブして自分の型をとって遊んだ。(上手くいくと顔がわかるスタンプになる) 今回僕の中で一番心に残ったのは、ブナの森でやった「しずかな時間」だ。一人ずつお気に入りの場所を選んで、声を出さず静かに過ごす。僕はゴロンと横になり空を見上げた。静寂が訪れる。本当に静かな時は「シーン」という音が聞こえるんだと知った。かすかにブナの小枝が風に揺らされた。風自体が音を立てて向こうへ通り過ぎてゆく。風にも音があるんだと改めて感じた。すごく長いような短いような「しずかな時間」はとてもいい時間だった。麓まで下りてきたところで、「もみのき森林公園」を象徴するかのような大きな大きな、もみのきの下で写真を撮った。「ああ、今年もこの木に会えた。」と思った。

2日目
2日目のスキーは時折雨が降る中、みんなとにかく良く滑った。驚いたのは初めてスキーに挑戦する奏汰と宗慈もメキメキと実をつけて、午後には中級者のコースに行ったことだ。今回がスキー2回目の智咲も序盤から安定した滑りを見せ、午後には中級者コースに行った。今回のメンバー全員が昼からはそちらのコースに挑戦したことになる。そのコースはどんな感じが説明すると、リフトに乗る時間が長く、基本的な傾斜が急でコースも長い。唯一身につけたボーゲン(スキー板をハの字にして滑る基本の滑り)だけで挑む心意気に拍手を贈りたい。僕は初めてあのコースに挑んだ時は正直ビビった。大樹と奏汰は上級者コースにもチャレンジしたようだった。(上級者コースは僕からするとほぼ崖くらいの急傾斜) 海土は初めから最後まで楽しそうに滑っていて、特に康司さんからターンを教えてもらったのが嬉しかったようだった。

大樹は「まだ滑りたい」と言っていたが、帰る時間になった。片付けをしてハイエースに向かっていてると老夫婦が話しかけてくれた。最初のコースでみかけたベテランのスキーヤーだ。「すごく上手になったね！滑るたびに上達していきびっくりしたよ。またスキー場で会いましょう！」と爽やかなメッセージを伝えてくれた。僕は彼らの挑戦をそんな温かい目で見守ってくれていたんだと思うと嬉しくなった。康司さんが、「土日は人が多くて暴走族のような若者や子どもがいて大変だけど、平日はベテランが多く、余裕がある人が多い。」と言っていたのを思い出した。雪のコンディションだけでなく、一緒にスキー場を共有する人々にも恵まれた一日だった。そして、心強いサポートをしてくれたゆーじくん、行き帰りの運転&完璧なレクチャーをしてくれた康司さんに心から感謝したい。